

資料1 『朱天』の『斎藤史全歌集』（1977年・1997年）収録時に削除された作品一七首
(内野光子作成)

(1) 「戦前歌」より

① 國大いなる使命を持てり草莽のわれらが夢もまた彩なるを 初版六頁

「とどろき」の最後一〇首目

『日本短歌』一九四一年二月「秋から冬へ15」*初出「理想」を改め

② たのめざるものも頼みきしどうなる野草の霜を今は云ひそね 二二頁

「ぼたん雪」六首目

『短歌研究』一九四一年二月「ぼたん雪9」

③ 煌めける祖国の歴史継ぎゆかむ吾子も御臣の一人と思へば 七二頁

「使命」四首目

初出不明

④ 神使命負へる我らと思ほへりひかりとどろき近づけるもの 七四頁

「使命」九首目

『女流十人歌集』一九四二年五月「飛沫45」 「思ほへば日日に」を改め

⑤ ますら夫はむしろ羨しもひとすじに行きてためらはぬ戦場を賜びき 七八頁

「訓練」九首目

初出不明

「開戦」より

⑥ かすかなるみ民の末の女ながらあかき心におとりあらめやも 八五頁

「四方清明」最後一二首目

『婦人朝日』一九四二年三月「国民の誓ひ5」

『新日本頌』一九四二年十一月「開戦15」*「かすかなる御民の末の女ながら丹

きこころに劣」を改め

⑦ 現つ神在ます皇国を醜の翼つらね来るとも何かはせむや 九五頁

「わが山河」六首目

『公論』一九四二年三月「四方清明5」

『日本短歌』一九四二年四月「春花また6」

⑧ 襲ふものまだ遂に無き神国の春さかりや咲き充ちにけり 一〇九頁

「たたかふ春」最後一六首目

初出不明

⑨ 國をめぐる海の隅隅ゆき足らひ戦ひ勝たぬ事いまだ無し 一一四頁

「珊瑚海海戦」六首目

初出不明

⑩みづからのいのち浄らに保ちも得で説く事多き人を見るかも 一二二頁

「微小」二〇首目

『短歌人』一九四二年九月「くろき炎 5」

⑪たばかられ生きし憤りは今にして炎と燃えむインド起たむとす 一二六頁

「荒御魂」二首目

初出不明

⑫まつらふは育くみゆきて常若の國悠かなり行手こしかた 一二九頁

「荒御魂」最後一〇首目

『文芸世紀』一九四二年一二月「十二月八日 7」

⑬動物を焼く匂ひに乾く着馴れ服火をかき立てて君も干さずや 一三七頁

「防人を偲びて」七首目

『文芸春秋』一九四二年一二月「北の防人を偲びて 10」

『短歌人』一九四三年二月「北なる人に 4」

⑭重傷のわがつはものをローラーにかけし鬼畜よ許し得べしや 一四六頁

「ニューギニヤ進撃」三首目

初出不明

⑮半島、高砂、インドネシヤの友打つづき撃ちて止まむと進む神いくさ 一四六頁

「ニューギニヤ進撃」四首目

『短歌人』一九四三年四月「進撃 4」 「やむと」を改め

⑯背戸畑の土の少しを守り袋に入れてゆきたる人如何に在る 一四六頁

「ニューギニヤ進撃」五首目

『短歌研究』一九四三年四月「冬樹 7」*「すこし」を改め

『短歌人』一九四三年四月「進撃 4」

⑰神怒りあがる炎の先に居て醜の草なすがなんぞさやらふ 一四七頁

「ニューギニヤ進撃」六首目

『文芸春秋』一九四二年一二月「北の防人を偲びて 10」